

最新版 財務体質改善の手引き

第1巻 財務諸表に書いてあること

第2巻 損益計算書の活用

第3巻 貸借対照表の活用

第4巻 楽になる銀行活用法

株式会社 キャッシュフローコーチ熊本

※ この CD 集の使い方

この CD 集は、簿記の知識がなくとも財務諸表（試算表・決算書）を理解できることで、経営者にとって会社経営のための大きな武器となるように作られています。

それぞれの項目で「見方」・「考え方」・「活用法」の 3 つの視点から進めていきます。

またキーワードは「安心・安全・ポジティブ」です。この CD 集を学ぶことによって、経営者のみならず会社全体に、この考え方・社風が根付くことを願っています。

（1）財務諸表を武器にできることの重要性

日本ではいよいよ人口減少が加速し、地方自治体によっては消滅すると予測されるところさえも出てきました。

その一方で人口の高齢化は進み、生産年齢人口（18歳～65歳）の減少による労働力不足や、購買金額の低下（年金生活者の増加や非正規労働者の増加）、グローバル経済による世界経済から受ける影響の大きさなど、経営環境の悪化は避けて通れない所まで来ています。しかしそんな中でも、ビジネスチャンスはしっかりと残されています。

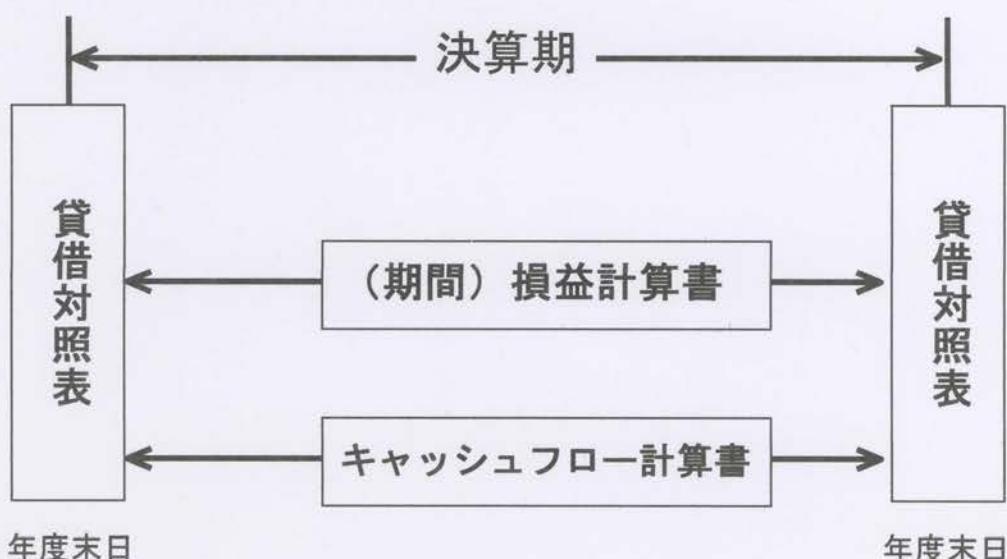
この様な中では、もはやこれまでのような、経営戦略・数値計画などが通用しないと思われます。今こそ全く新しい発想が求められています。

そこで一番身に着けるべきことは、数字を武器にできる経営者になる・・ということではないでしょうか。企業存続のカギはやはり正しいお金の流れに尽きるでしょう。

小さな失敗が命取りになるような時代です。数字を武器にできることで、これから先を予測し、来るべき未来に対して今の内に手を打ちましょう。

この CD 集ではそんな経営者の皆さんに、最小限度の知識で全体が分かるような解説に致しました。簿記の知識がなくても、経営者として知ってほしい最小限度の知識・考え方・活用法まで網羅致しました。また専門用語には、できるだけ平易に解説することを心がけています。今更聞けないこと等を、これで理解していただければ幸いです。

（2－見方）財務諸表の関係を図にしてみると



(3-考え方) 貸借対照表が教えてくれるもの

- ①決算日時点での財産目録と呼ばれています。（資産・負債・純資産等の額）
 - ②過去の経営判断の集大成・・・経営の通知表です。
 - ③会社が解散するまで数字は何年も継続します。
-
- ④企業存続の安全性を見ることもできます。（後で詳しく述べます）
 - ⑤固定資産の部をみるとその会社の業種がわかります。
 - ⑥企業存続の改善ポイントを示します。（安全な会社作りはこの強化から・・・）

(4-考え方) 損益計算書が教えてくれるもの

- ①利益（損失）がどこから出たかが分かります。
- ②税務署から見たら税金計算書です。
- ③決算が終わったら期首には0にリセットされます。
- ④企業収益構造の改善ポイントを示します。（安全な会社を目指します）

(5-見方) C/F（キャッシュフロー計算書）が教えてくれるもの

前期と本期の現預金残の増減の理由（原因）を示すものです。

- ①営業活動
- ②投資活動
- ③財務活動・・・に分かれます。

(6-活用法) 財務諸表を読める（理解できる）メリットとは

- ①現状を隠さず厳しく捉える事ができます。
 - ②今まで見えなかった問題点・原因を発見できます。
 - ③幹部と危機感を共有出来ます。
-
- ④改善のスタートとなり、解決策・改善策へつながる行動が生まれます。
 - ⑤P→D→C→Aのサイクルを回すために、数字が必要不可欠と分かります。
 - ⑥経営計画のスタートは、この数字の改善策からということが分かります。
-
- ⑦安心・安全な会社へのヒントがたくさん隠れています。
 - ⑧過去を振り返った時、過去の問題点や悪い数字に落ち込む？場合があるかも知れませんが、大丈夫です。未来は知恵でどうにでも変える事ができます。過去に後悔している経営者のほとんどが、数字に疎かったという事実です。危険な兆候が出ていたにも関わらず、気が付かず、またそれほど重要であるという認識がなかったためです。
-
- ⑨すべてはポジティブに捉え、行動しましょう。

(7-見方・考え方) 貸借対照表を図に書いてみると

資 産	負 債	→ 他人資本
	資本金	→ 自己資本
	剰余金	→ 結果累計
		純資産の部

(投下) (調達)

- ①創業当初は右の「自己資本」+「他人資本」で調達しています。
- ②その調達されたお金を左に投下して、必要な資産を購入しました。
- ③この資産をフル回転させることで、企業は利益を上げていきます。
- ④簿外資産・簿外負債に注意が必要になります。
- ⑤剰余金は創業から今日までの、利益(欠損)の合計が表示されます。
- ⑥この表は、経営者のこれまでの「意志決定の積み重ね」とも言われています。
- ⑦財務体質が強いか・弱いかは、この表が教えてくれます。
- ⑧詳しくは後で述べる経営分析指標をみると分かります。

(8-見方・考え方) 損益計算書を図に書いて見ると

売 上	売上原価(製造原価)	
	販売費・一般管理費	
	売上総利益	営業利益
		営業外損益
	経常利益	